

ガイダンス施設の基本方針

宮畑遺跡のガイダンス施設が市民にとって誇りや愛着を持つことができる施設となるよう、以下のような計画を行っています。

1. 異空間を思わせる空間を生み出す木造大屋根

ガイダンス施設の屋根形状は、縄文ランドスケープを構成する周囲の山並が表現され、風景と一体化するような大屋根となっています。大屋根に覆われたエントランスホールや展示室などの大空間は、人々の気持ちを高揚させるような異空間として演出されます。屋根構造には環境や人に優しい21世紀の材料として注目されている木造を採用し、構造形式は力学を素直に表現した積層木板構造としました。

2. 一元的な管理

必要諸室を機能的かつコンパクトに配置しているため、一元的な管理が可能です。(P.25参照)

3. 一体の大きなエントランスホール、市民展示ギャラリー

エントランスホールと市民多目的ギャラリーは、一体の大きな空間になっています。ここはガイダンス施設の中心に位置し、木造の柱が林立するシンボリックな空間です。市民多目的ギャラリーは、エントランスホールの一部を用いることで市民が気軽に立ち寄ることができる場所としています。また企画展示等の種類によりパーティションなどで自由に領域を調整できる、フレキシブルな(自由度の高い)空間としています。縄文工房で制作された市民の作品等をここで展示することも可能です。そして地元の人々の愛着が湧き、宮畑縄文ガイダンス施設の顔として、にぎわいある空間になります。

4. 縄文工房と多目的ホールは可動間仕切りで一体の大きな空間に

縄文工房と多目的ホールを隔てる壁を可動間仕切りとしています。これを開放することで、一体の多目的ルーム(188m)として用いることも可能です。北側の大きな開口により、直射日光は遮られ、とても明るい空間になります。また多目的ホールには遮光スクリーンを取り付けることで講演会のスライド映写等に対応することも可能です。

5. 体験広場とロτζア

体験広場は縄文工房や多目的ホールと一体で利用することができ、イベントや団体の集合場所、屋外体験学習等に利用できます。また体験広場に面する屋根に覆われた列柱空間(ロτζア)は、真夏の炎天時や雨天の時でも体験学習が可能です。

6. 長いアプローチを設け、導入を演出(導入展示)

入口から異空間であるエントランスホールへ到る部分には、導入空間として、施設の紹介を兼ねた展示がされていて、来館者の期待感を高めます。

7. 展示空間

2階に設けられた展示室は、エントランスホールと空間的に連続し、来館者をスムーズに導きます。エントランスホールの空調は床暖房を想定しているため、天井高が高いにも関わらず、特に暖房時は暖気は足元から来館者を暖めます。

8. 休憩ラウンジと園路デッキ

ガイダンス展示や屋外展示を見た後は、休憩ラウンジでお茶を飲んだり食事をしながら、ゆっくりと周囲の山並みをはじめとした縄文ランドスケープを眺めることができます。また休憩ラウンジに隣接する園路デッキは公園に連続しており、内部展示と外部展示をつなぐ役割を果たします。

9. 土層剥ぎ取り展示

幅14m程度、高さ2.5mの土層剥ぎ取り展示は、できるだけそのままの大きさでエントランスホール空間の正面に設置されます。大きなスケールの展示は発掘現場の臨場感を伝えます。

